



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために



2011-2012 年度

国際ロータリー会長 / カルヤン・パネルジー 会長 / 飯塚 詔夫 副会長 / 黒田 昌弘
2690地区ガバナー / 伊藤 文利 幹事 / 堀江 卓男 会計 / 榎野 良文

平田ロータリークラブ 事務局

〒691-0001 島根県出雲市平田町2280-1 平田商工会議所2F
TEL: 0853-63-3232 / FAX: 63-5365 / IP: 050-5204-5816
URL: <http://hirata-rotary.jp/> Mail: office@hirata-rotary.jp

9:00 ~ 17:00 (土・日曜・祝祭日 休局)

例会プログラム

例会日	卓話者	演題
3月1日	鰐淵コミュニティセンター長 高橋一夫様	鰐淵と垂水四郎
3月8日	会員 桐原善行	年男の抱負
3月15日	大社町 山崎裕二様	出雲阿国

出席報告

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前回補正出席率
37	27	10(4)	81.82%	91.18 %

欠席者

河原 / 園山 / 石原輝 / 大谷 / 杉原朋 / 飯塚大 / 來間
(石原恵 / 山根 / 牧野 / 杉原邦)

来訪者

竹内(出雲南)
メイクアップ
なし

次回例会受付当番

(3月15日) 釜屋治男 / 恒松克己 / 内田節夫
(3月22日) 田中浩史 / 山根章一 / 遠藤 栄

近隣クラブ例会情報 (メイクアップを考えましょう)

(出雲) (松江) 赤文字 例会変更

月	出雲中央	松江南
火	出雲	松江しんじ湖
水	大社	松江
木		松江東
金	出雲南 3/16 3/30(休)	

会長挨拶

今年は例年になく大雪にみまわれた地方が多い中、幸いにも出雲は平年並みといった所でしょうか。少しずつではありますが、日の出も早くなり、日中の時間も長くなった様な気が致します。

さて、今日から3月(弥生)に入りました。3月3日は桃の節句、ひな祭りです。旧暦のひな祭りは3月24日になります。

今のカレンダーは太陽暦です。日本で採用されたのは明治5年のことで、開国の時に諸外国の条約交渉等が外国と日本では日付が違っていると、うまくいかないから等々の理由から「明治5年12月3日以後明治6年1月1日とする」という法令によって暦は太陽暦となりました。

それ以前使われていた太陰暦は、日本人に親しまれていた暦です。太陰とは月の事で、毎月規則正しく満ち欠けする月の観察から生じた暦です。太陰暦は、農耕社会にとっては大変都合の良い暦でした。

いつ頃種を蒔けばよいのか、いつ頃取り入れをすればよいのか、直ぐに分かるからです。

桃の節句(ひな祭り)は、新暦の3月3日では意味しません。ところが日暦の桃の節句(ひな祭り)の頃には桃の花が咲く季節となっております。ひな祭りの最初の頃は「ミソギ」の一種で人形を作って人や家のけがれを代行させて川に流しました。(鳥取の用瀬)

そして、だんだんと立派な現在でも見られる段飾りのお雛様が飾られる様になりました。この様な昔からの行事を大切に残していきたいものです。やはり自然と共にある日本の伝統行事や農・魚・林業等には太陰暦(旧暦)が合っているのでは..。

幹事報告

1. ガバナー・エレクト森田昭一郎様、地区R財団委員長 鳥居 滋様より2/19(日)開催された「地区夢計画合同セミナー」出席へのお礼状をいただきました。
2. 3/3(土)・3/4(日) 倉敷アイピースクエアにおいて、会長エレクト研修セミナー(PETS)が開催されます。当クラブ 黒田昌弘会長エレクト出席致します。

委員会報告

<出席親睦> 会員誕生お祝い

スマイル

竹内 (久し振りにお邪魔致します。)

加藤昇 (高橋センター長様日頃は大変お世話になっております。今日はセンター長のお話を楽しみに来ました。)

大島治 (高橋様今日はありがとうございました。)

釜屋 (高橋一夫様、ようこそ。スピーチよろしくお願い致します。)

大島卓 (堀江会員さん、大変きれいに改装されました。おめでとうございます。本日の講師先生ご多忙中ありがとうございました。)

榎野 (ホテルほり江様のリニューアル開店をお祝い申し上げます。)

高砂 (高橋センター長、本日のスピーチ楽しみにしています。竹内様ようこそ！旅行楽しみにしています。)

恒松 (竹内様 ようこそいらっしゃいました。18日には皆様にご迷惑をおかけします。)

桐原 (所用あり早退させていただきます。来週、単独スピーチを賜っていますが、ストーリーが定まらず四苦八苦しております。)

黒田 (申し訳ございません。よろしくお願いいたします。)

福田 (早退します。)

スピーチ・例会行事

「鰐淵と垂水四郎」

鰐淵コミュニティセンター

センター長 高橋一夫 様

垂水四郎とは、播州、白播城主赤松彦次郎敦康の嫡男で、将軍 足利義政のため父祖滅亡後、播州を出奔し諸国を漂泊した後、河下村の垂水谷に蟄居した赤松四郎祐信を世間の人が垂水四郎と称した。

現在も河下町に実在する、河下村の原氏の娘某女を妻とし1481年に亡くなるまでの地域への大きな貢献、また怪力持ち主として世間に聞こえていた垂水四郎と隠岐の島の難波九郎との伝説等 お話頂きました。



会員寄稿

会員 高砂明弘



先日尾原ダム完成を前に湛水（たんすい）試験が行なわれた。

100年に1度の洪水を想定して1日限りの非常用水門が開放された。

その時の2度と見るこのできない決定的瞬間のショットです。